

引用文献

- 安藤満代, 小笠原映子 (2004). 施設入所中の高齢者の心理に及ぼすアロマセラピーの効果. 日本アロマセラピー学会誌, 3(1), 52-57.
- 青暢子 (2008). 基礎 4 章 精油の化学と人体への副作用. 日本アロマセラピー学会編. アロマセラピー標準テキスト基礎編. 50-65. 丸善株式会社.
- 朝比奈正人 (2007). 各論—B. 発汗・皮膚血管系自律神経機能検査-5 交感神経性皮膚反応 sympathetic skin response (SSR). 日本自律神経学会編. 自律神経機能検査 (第4版). 253-258. 文光堂.
- Buchbauer, G., Jirovetz, L., Jäger, W. et al. (1993). Fragrance compounds and essential oil with sedative effects upon inhalation. *Journal of Pharmaceutical Sciences*, 82(6), 660-664.
- Cannon, W. B. (1932). からだの知恵—この不思議なはたらき. 館鄰他訳 (1981). 講談社.
- Duan, X., Tashiro, M., Wu, D. et al. (2006). Heart rate variability in autonomic function and localization of cerebral activity during inhalation of perfumed fragrances. *Journal of International Society of Life Information Science*, 24(2), 383-395.
- 江上京里 (2002). 腰背部蒸しタオル温電法ケアと交感神経活動及び快さの関連. 聖路加看護学会誌, 6(1), 9-16.
- Fellowes, D., Barnes, K. & Wilkinson, S. (2008). Aromatherapy and massage for symptom relief in patients with cancer. DOI: 10.1002/14651858. CD: 002287. Retrieved January 27, 2011, from Cochrane Database of Systematic reviews.
- 藤林真美, 神谷智康, 高垣欣也他 (2008). GABA 経口摂取による自律神経活動の活性化. 日本栄養・食糧学会誌, 61(3), 129-133.
- 原三紀子, 宗村弥生, 北素子 (2010). 看護領域におけるアロマセラピー研究の動向と課題. 看護実践の科学, 35(8), 58-65.
- 早野順一郎 (1996). 心拍変動による自律神経機能解析. 井上博編. 循環器疾患と自律神経機能. 58-88. 医学書院.
- 林博史 (1999). Introduction. 林博史編. 心拍変動の臨床応用—生理的意義, 病態評価, 予後予測—. 2-27. 医学書院.
- 林貢一郎, 中村真理子, 相澤勝治他 (2002). 月経周期に伴い顔面冷却刺激に対する心臓副交感神経系応答は変化する. 体力科学, 51, 437-446.

- 菱沼典子 (2011). 看護形態機能学 第3版 生活行動からみるからだ. 日本看護協会出版会. 39-65.
- Holmes, T. H. & Rahe, R. H. (1967). The social readjustment rating scale. *Journal of Psychosomatic Research*, 11, 213-218.
- Holt, F. E., Birks, T. PH., Thorgrimsen, L. M. et al. (2009). Aroma therapy for dementia. DOI: 10.1002/14651858. CD: 003150. Retrieved January 27, 2011, from Cochrane Database of Systematic reviews.
- 井上重治 (2009). 精油蒸気の曝露によるマウス、ラットの皮膚吸収. *Aromatopia*, 93, 38-42.
- 井上重治, 石原浩子, 内田勝久他 (2000a). アロマバス (芳香湯浴) における水難溶性テルペン炭化水素およびエステル成分の優先的マウス皮膚吸収と組成変動について. *Aroma Research*, 1(2), 75-83.
- 井上重治, 山口英世 (2000b). 芳香浴における精油蒸気のマウス吸収. *Aroma Research*, 1(3), 72-79.
- 井上重治, 山口英世 (2000c). 芳香浴における精油蒸気のラット吸収と代謝. *Aroma Research*, 1(4), 77-81.
- 石川康宏 (2000). 臨床医学のためのウェブレット解析. 医学出版. 310-329.
- Itoh, M., Sasaki, T., Duan, X. et al. (2004). A physiological study on the effects of lavender aroma. *Journal of International Society of Life Information Science*, 22(1), 109-116.
- Jäger, W., Buchbauer, G., Jirovetz, L. et al. (1992). Percutaneous absorption of lavender oil from a massage oil. *Journal of the Society of Cosmetic Chemists*, 43(January/February), 49-54.
- 加藤京里(2011). 後頸部温罨法中の快がもたらす効果モデルの開発. 2011 年度聖路加看護大学大学院博士論文.
- 川真田樹人, 高橋稔之, 杉野繁一 (2005). 第 1 部: 体温の生理学 7. 暖かいと眠くなるのか? 眠いから体温が上がるのか?. 山蔭道明監修. *Life Support and Anesthesia [LiSA]*増刊 体温のバイオロジー: 体温はなぜ 37°Cなのか, 47-48.
- Kräuchi, K., Cajochen, C., Werth, E. et al. (1999). Warm feet promote the rapid onset of sleep. *Nature*, 401, 36-37.

- Lazarus, R. S. & Folkman, S. (1984). ストレスの心理学—認知的評価と対処の研究. 本
明寛他訳 (1991). 実務教育出版. 4-24.
- Lindgren, L., Rundgren, S., Winsö, O. et al. (2010). Physiological responses to touch
massage in healthy volunteers. *Autonomic Neuroscience: Basic and Clinical*,
158(1-2), 105-110.
- 真栄城千夏子, 宮城千賀子, 宮城万里子他 (2002). ラベンダー、ゲットゥ吸入の女性の自
律神経への作用. *日本女性心身医学会雑誌*, 7(2), 238-246.
- 眞鍋えみ子, 大本千佳, 松田かおり他 (2009). ラベンダー精油を用いた上肢トリートメン
トが自律神経活動と気分に及ぼす影響. *日本アロマセラピー学会誌*, 8(1), 34-40.
- 松本佳那子, 松田昌子, 宮田富美他 (2006). 高照度光照射療法による月経周期の自律神経
機能の変化. *山口医学*, 55(5), 167-172.
- 三上杏平 (2008). カラーグラフで読む精油の機能と効用. —エッセンシャルオイルの作用
と安全性の図解—. フレグランスジャーナル社. 62.
- 三谷博子, 石山陽事 (2008). 発汗と交感神経皮膚反応 SSR (1). *臨床脳波*, 50(3), 165-172.
- 森口孝一, 楽木宏実, 森口篤他 (1998). Wevelet 解析法を用いた心血管系のゆらぎ解析; 自
律神経活性評価の新しい手法. *Japanese circulation journal*, 62(SupplementI), 273.
- 宗像恒次(2004). 日常苛立事(主観的ストレス源)尺度. 河野友信他編. ストレススケールガ
イドブック(第1版). 実務教育出版. 350-353.
- 宗像恒次, 仲尾唯治, 藤田和夫他 (1985). 都市住民のストレスと精神健康度. *精神衛生研
究*, 32, 49-68.
- Nightingale, F. (1860). 対訳看護覚え書. 小林章夫他訳 (1998). うぶすな書院. 5, 219,
319.
- 新島旭 (2004). 匂い刺激の自律神経活動への効果. *Aroma Research*, 5(2), 69-75.
- 新田紀枝, 川端京子, 高橋晃子他 (2006). ホスピス・緩和ケア病棟看護師の代替療法の習
得の現状と要望. *日本看護学会論文集(看護教育)*, 第37回, 144-146.
- 小笠原映子, 椎原康史, 小坂橋喜久代他 (2007). 柑橘系精油によるアロママッサージのリ
ラクセーション効果およびリフレッシュメント効果について—皮膚コンダクタンスお
よび気分形容詞チェックリストによる評価—. *日本看護研究学会雑誌*, 30(4), 17-26.
- 緒方昭広, 吉川恵士, 栗原勝美他 (2009). マッサージ等の手技による療法に関する研究
(第2報)—手技療法と有害事象についての文献的検討—. *理療教育研究*, 31(1), 35-59.

- 小川俊枝, 田島雅之, 斉藤早苗他 (2007). 超重症心身障害児(者)に対するアロママッサージの効果に関する研究. 日本重症心身障害学会誌, 32(1), 129-135.
- 大橋俊夫, 坂口正雄 (1993). I. 発汗の生理と測定法. 大橋俊夫他編. 精神性発汗現象—測定法と臨床的応用—. 3-16. (株) スズケン医療機器事業部.
- 大久典子, 山家智之, 吉田克己 (2004). 香り刺激による心拍変動と脳神経細胞の酸素代謝. 自律神経, 41(4), 439-443.
- 大川百合子, 東サトエ (2011). 健康な成人女性に対するハンドマッサージの生理的・心理的反応の検討. 南九州看護研究誌, 9(1), 31-37.
- Otsuka, K., Murakami, S., Kubo, Y. et al. (2003). Chronomics for chronoastrobiology with immediate spin-offs for life quality and longevity. *Biomedicine & Pharmacotherapy*, 57(Suppl 1), 1-18.
- 犀川哲典 (1999). 各種薬物と心拍変動. 林博史編. 心拍変動の臨床応用—生理的意義, 病態評価, 予後予測—. 136-156. 医学書院.
- 阪上未紀, 前田和久, 須見遼子他 (2010). マカダミアナッツオイルの経皮吸収に関する基礎的研究. 日本アロマセラピー学会誌, 9(2), 69.
- 櫻井利江 (2002). 体動抑制を伴う仰臥位保持中の自律神経系活動に及ぼす時間予告の影響. 日本看護技術学会誌, 1(1), 20-27.
- 佐々木一裕, 安田猛彦, 寺山靖夫 (2007). 各論—A. 心・血管系自律神経機能検査-6b 心電図R-R間隔変動: スペクトル解析. 日本自律神経学会編. 自律神経機能検査 (第4版). 164-168. 文光堂.
- 佐藤都也子 (2006). 健康な成人女性におけるハンドマッサージの自律神経活動および気分への影響. 山梨大学看護学会誌, 4(2), 25-32.
- Selye, H. (1956). 現代生活とストレス. 杉靖三郎他訳 (1963). 法政大学出版局. 40-72.
- Shen, J., Niijima, A., Tanida, M. et al. (2005). Olfactory stimulation with scent of lavender oil affects autonomic nerves, lipolysis and appetite in rats. *Neuroscience Letters*, 383, 188-193.
- 繁榎算夫 (2008). 第2章 統計的検定. 繁榎算夫他編. Q&A で知る 統計データ解析 [第2版]—DOs and DON'Ts—. 68-73. サイエンス社.
- 塩田清二, 竹ノ谷文子 (2008). 総論 1 章 アロマセラピーに必要な解剖生理学. 日本アロマセラピー学会編. アロマセラピー標準テキスト基礎編. 80-96. 丸善株式会社.

- 菅谷潤壹, 岩瀬敏, 西山哲成他 (1997). 体温調節と皮膚交感神経活動—ヒトの皮膚交感神経活動に血管拡張神経活動が含まれるか否かの検討—. 自律神経, 34(3), 179-183.
- 鈴木彩加, 大久保暢子 (2009). 看護分野におけるアロマセラピー研究の現状と課題. 聖路加看護大学紀要, 35, 17-27.
- 鈴木彩加, 大久保暢子 (2010). アロマハンドマッサージを受けたことでもたらされる気持ちの様相. 聖路加看護学会誌, 14(3), 55.
- 竹宮敏子, 山口晴子, 三浦庸子他 (1993). 自律神経機能検査としてのサーモグラフィーとサーモメーター. 東京女子医科大学雑誌, 63(1), 68-74.
- 谷田恵子 (2004). 真正ラベンダーの香りが副交感神経活動に及ぼす影響: 心拍変動の周波数解析を用いた検証. 日本アロマセラピー学会誌, 3(1), 45-51.
- 十時奈々, 池内雅子, 熊野仁美他 (2008). 脳血管障害患者の疼痛緩和〜アロママッサージを用いて〜. 日本リハビリテーション看護学会学術大会集録, 7, 168-170.
- 特定非営利活動法人 日本緩和医療学会「緩和医療ガイドライン作成委員会 補完代替医療ガイドライン作業部会, 厚生労働省がん研究助成金「13-20 我が国におけるがんの代替療法に関する研究」班, 「17-14 がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」班 (2009). がん補完代替医療ガイドライン(第1版). 1-2, 14-15. <http://www.jspm.ne.jp/guidelines/cam/cam01.pdf> [2011-02-09]
- 塚越みどり, 菱沼典子 (1999). 熱布による背部温罨法が自律神経活動、背部皮膚温に及ぼす影響. 聖路加看護学会誌, 3(1), 11-18.
- Vanoli, E., Adamson, P. B., Ba-Lin (1995). Heart rate variability during specific sleep stages. A comparison of healthy subjects with patients after myocardial infarction. *Circulation*, 91(7), 1918-1922.
- 渡邊弘美 (2007). 各論—B. 発汗・皮膚血管系自律神経機能検査—7 皮膚温測定(サーモグラフィ thermography). 日本自律神経学会編. 自律神経機能検査 (第4版). 253-258. 文光堂.
- Wilkinson, S., Aldridge, J., Salmon, I. et al. (1999). An evaluation of aromatherapy massage in palliative care. *Palliative Medicine*, 13, 409-417.
- 山本敬子, 阿曾洋子, 永田鎮也 (2007). 密封式足浴が中年期健康者の自律神経系および精神神経免疫活性に及ぼす影響—ウェーブレット解析による自律神経系活性の時系列変化の検討—. 自律神経, 44(6), 400-408.

山本健一, 金子浩 (1986). 皮膚電気活動の薬理. 新美良純他編. 皮膚電気活動. 105-115.
星和書店.

山崎潤 (2008). 香りによる自律神経系指標の臨床研究—精油のローズウッドとグレープ
フルーツの比較において—. *Aroma Research*, 9(3), 14-20.

山崎潤, 塩田清二, 山田朱織他 (2004). アロママッサージの施術効果について(評価基準
を用いた精油効果の検討) 第1報 手に対するマッサージ効果. *日本アロマセラピー学
会誌*, 3(1), 29-37.

吉田聡子, 佐伯由香 (2000). 香りが自律神経系に及ぼす影響. *日本看護研究学会雑誌*,
23(4), 11-17.